Japanese Laid-Open Patent Publication No. 63-226178/1988 (Tokukaisho 63-226178) (Published on September 20, 1988)

(A) Relevance to Claims

The following is a translation of passages <u>related</u> to all the claims of the present invention.

(B) Translation of Relevant Passages

The display which operates according to the scheme illustrated in Figures 7, 10, and 11 differs from the one described earlier as follows: (i) The data is accessed by the image memory 70 and one of the four RAMs 71 stores the bit in each digit according to that bit's digit in the 8-bit byte. (ii) Data is searched in each bock of bites in a suitable form for writing a bit of a particular digit to a group of x lines for display in a single step. In the first method it is suggested that a single line for data is accessed in each step; however, in this case, the number of steps is reduced by the coefficient x.

In the foregoing arrangement, the number, m, of lines is given by

THE SECOND SECON

 $m = 2^{m-1} \times p$

where n is the number of bits and p is an integer. However, if bits are written in a simple sequence of increased digits, like the one shown in Figure 8, the time taken to write to each line include an error when it is great in comparison to the time of the rightmost bit. Therefore, as shown in Figure 8, to scan the least number of lines (15 for four-bit scheme), the line writing time errors give a ratio of 0.75:1.75:3.75:8.75 and therefore distorts four-bit time division.

The data processing method mentioned above may produce large error in halftone levels if the addressing sequence of Figures 1-6 is used. However, the addressing sequence can be modified to remove the error. The addressing sequence is changed so that each bit is addressed according to its digit in a sequence, 1, -, 3, 4, 2, which represents a line period when the lines are not addressed (blank line period). The addressing sequence has three results: the binary time division is an error free ratio of 1:2:4:8, the number of lines scanned in this case is 12 or one of its multiples, and the time available for writing to each line is reduced by 20%.

THIS PAGE BLANK USETU

(9)日本国特許庁(JP)

⑩特許出願公開

@ 公 開 特 許 公 報 (A)

昭63-226178

@Int_Cl.4

受先権主張

阻 人 識別記号

厅内整理番号

母公開 昭和63年(1988) 9月20日

H 04 N 5/66 G 09 G

102

B-7245-5C

8621-5C

審査請求 未請求 発明の数 2 (全16頁)

表示装置の動作方法および表示装置 3発明の名称

> 创特 頤 昭62-235070

留出 願 昭62(1987)9月21日

砂1986年9月20日母イギリス(GB)到8622717

砂発 明者 プライアン ジエイソ イギリス国バークシヤー、ウインザー、コンベント

ハンフリーズ

個発 明 考 コリン マーティン イギリス国チェシヤー、フロツザム、カレツジ ドライ

ウオーターズ 印出 ソーン イーエムアイ プ、エリンデール コテージ (番地なし)

ピーエルシー

イギリス国ロンドン、ダブリユウ1アール 9エイエイ

チ、テンターデン ストリート

20代 理 弁理士 山元 俊仁

1. 発明の名称

表示装置の動作方法および表示装置

2. 特許請求の範囲

1. それぞれ選択的にセットしうるピクセル要 素のラチスを有する表示装置の動作方法であって、 表示のための複数の西像を表わす信号を受信し、 各画性に対してピクセル要素の行を複数回、時 間多重アドレスすることよりなり、

前紀アドレス工程が行のグループを同時にセッ トすることを含み、各グループはアドレッシング ・シーケンスにおいて雑聞された複数の行よりな り、1つのグループ内の行が2進進行を呈示する アドレッシング・シーケンスにおいて時間的分離 を有する隣接した行と系列を形成するようになさ れている方法。

2. 特許請求の範囲第1項記載の方法において、 崩記アドレッシング工程が、1つの画像における 1つの行のピクセルの一部分に従って1つのグル ープの1つの行のすべてのピクセルをセットし、

かつしつのライン国際において順次的に、前記画 像におけるピクセル・データの他の部分に従って 前記グループの他の行のすべてのピクセルをセッ トすることを含む前記方法。

- 3. 特許請求の範囲第1項または第2項記載の 方法において、行の各グループは4つの行で形成 され、それらりつの行はそれぞれ、1回のセット 動作時に、そのグループにおける他のものとは異 なるピクセル・データの一部分に従ってセットさ れる前記方法。
- 4. 特許請求の範囲第1~3項のうちの1つに 記載された方法において、1つの再復に対する平 均輝度レベルの値を発生し、先行画像に対する発 住された平均煤度値に従って次の苦燥におけるが ループに対するピクセル・データの部分のスケー リングを行うことを含む病配方法。
- 5. 表示のための1つの両像を変わす受信され た信号の各部分に依存してそれぞれ選択的にセッ トしうるピクセル要素のラチスと、

予め定められたシーケンスに従ってピクセル要

--635--

(2)

需の行の時間多重アドレッシングを行い、各声像に対して各行が複数回アドレスされるようにする 手段を共雄し、

刷記アドレス手段は、アドレッシング・シーケンスにおいて超間した複数の行よりそれぞれなる行のグループを同時にセットする手段を含んでおり、1つのグループの行が2進逃行を呈示するアドレッシング・シーケンスに時間的分離を有する 帰接行と系列を形成するようになされている表示 場面。

- 6. 特許請求の範囲第5項記載の表示整置において、1つの画像に対する信号が、前記ラチス内の1つのピクセル要素をセットするためのデータをそれぞれ表わす複数の部分を有しており、それらの部分はそれぞれ、前記画像における1つのアドレスに関してピクセル要素に対するアドレッシング・データをそれぞれ表わず複数の部分によって形成されている前記表示整置。
- 7. 特許請求の範囲第5項または第6項記載の 表示装置において、前記アドレッシング手段が、

(3

10. 特許請求の範囲第5~9項のうちの1つに 記載された表示装置において、複数の液晶セルが 前記ラチスを形成している前記表示装置。

3. 発明の詳細な説明

本発明は表示装置に関し、さらに詳細には、例 えば強誘電性液晶材料で作成された双安定要素を 用いたグレースケール・テレビジョン表示装置に 関する。

英国特許第1594151号明報書には、2進 ビデオほ子の値に比例した期間のあいだ各要素が 駆動される表示装置が開示されている。

本発明は、表示のための1つの西側を表わす受 信された信号の各部分に依存してそれぞれ選択的 にセットしうるピクセル要素のラチスと、

予め定められたシーケンスに従ってピクセル要素の行の時間多度アドレッシングを行い、各画像に対して各行が複数回アドレスされるようにする手段を具備し、

前記アドレス手段は、アドレッシング・シーケ ソスにおいて雑聞した複数の行よりそれぞれなる

(5)

1 つの画像におけるピクセル・データの一部分に 従って1 つのグループの1 つの行におけるすべて のピクセルをセットし、そして1 つのライン問題 において順次的に、前記画像におけるピクセル・ データの他の部分に従って前記グループの他の行 のすべてのピクセルをセットするための手段を具 値している前記表示装置。

- 8. 特許請求の範囲第5項~第7項のうちの1 つに記載された表示装置において、各行グループ が4つの行よりなり、それらの4つの行のそれぞ れが、1つのセット動作時に、そのグループにお ける他のものとは異なるピクセル・データの部分 に従ってセットされる前記表示装置。
- 9. 特許請求の範別第5~8項のうちの1つに 記載された表示装置において、1つの声像に対す る平均輝度レベルの値を発生するための手段と、 先行画像に対する発生された平均輝度値に従って 次の画像における各グループに対するピクセル・ データの部分のスケーリングを行うための手段を 具備した前記度示装置。

(4)

行のグループを同時にセットする手段を含んでおり、1つのグループの行が2進進行を呈示するアドレッシング・シーケンスに時間的分離を有する 隣接行と系列を形成するようになされている表示 装置を提供する。

1つの画像に対する信号はラチス内のピクセル要素をセットするためのデータをそれぞれ変わす 複数の部分を含んでおり、それらの部分はそれぞれその画像における1つのアドレスに関してピクセル要素に対するアドレス・データを変わす複数の部分によって構成されていることが好ましい。

府記アドレッシング手段は1つの百像における ピクセル・データの1つの部分に従って1つのグ ループの1つの行のすべてのピクセルをセットし、 そしてライン周期において順次的に、その百像に おけるピクセル・データの他の部分に従って上記 グループの他の行のすべてのピクセルをセットす るための手段を具備していることが好ましい。行 の各グループは4つの行で形成されており、それ らの行はそれぞれ、1つのセット動作時に、その

特周昭63-226178(3)

グループ内の他のものとは異なるピクセル・データの部分に従ってセットされる。

アドレスされた後には、ピクセル貿易は次のアドレッシングが作ずるまでセット状態にとどまるか組持される。従って、セットされている各ピクセルの存扱期間は設当ピクセル間のアドレッシング・シーケンスにおける一時的な分類に依存し、この分類は前述のように1つのグループにおける2世進行関係を有している。従って、アドレレンスにおける第1の予め定められた時間関係のあいだってからないである。ないでありられた時間間のあいだその行をセットし、それにより所定の資金に対する1つの行の異なるアドレスに対してセット時間を異ならせるように効作する。

本発明の表示設置は1つの西位に対する平均切 度レベルの傾を発生する手段と、前記前の面位に 対する発生された平均切度観に従って次の両位に おける各グループに対するピクセル・データの部

(7)

のグループの他の行のすべての 50クセルを設定することを含む。行の各グループはくつの行で形成されており、それらの行のそれぞれは、1つのセット 外作時に、解記グループにおける他のものとは異なるピクセル・データの部分に従ってセットされることが有利である。

この方法は、1つの高位に対する平均切底レベルの値を発生し、前記前の高位に対する発生された平均切底値に従って次の高位における各グループに対するピクセル・データの部分のスケーリングを行うことを全な

本鬼明は、付加的なラインおよびドライバ、または高陽の反空間疑動性あるいは極端に高望なスイッチング時間を必要とすることなしに双安定のセット可能なピクセル安急のラチスの効果的なアドレッシングを可能にする。

l つのピクセルはlまたはそれ以上の設品セルよりなる。

本発明はカラー夏示鵠図および白黒変示袋図に 臼用できる。 分のスケーリングを行うための手段を異似している。

本免明はまた、それぞれ選択的にセットしうる ビクセル安急のラチスを有する表示装置の動作方 述であって、

复示のための拡致の高位を表わす信号を受信し、 各高位に対してピクセル要素の行を複数回、時間多位アドレスすることよりなり、

前記アドレス工程が行のグループを同時にセットすることを含み、各グループはアドレッシング・シーケンスにおいて超間された複数の行よりなり、1つのグループ内の行が2進退行を呈示するアドレッシング・シーケンスにおいて時間的分超を有する誤信した行と系列を形成するようになされている方法を提供する。

アドレッシング工程は、1つの高位におけるピクセル・データの1つの部分に従って1つのグループの1つの行のすべてのピクセルをセットしかつ1つのライン周辺において以次的に、その高位におけるピクセル・データの位の部分に従ってそ

(8)

本発明の他の同間は、本発明を具現した表示設 でのフォーマットの、例えばここに記述されかつ 図示されたフォーマットの倡母の発生に迫合しか つそのために設計された碧密を提供する。本発明 の他の周囲は、このような信母の伝送に適合した および/またはそのために設計された碧冠、この ような信母の受信のために設計された碧云、この はそのために設計された碧豆、およびこの はそのために設計された碧豆、およびこの はそのために設計された碧豆、およびこの はそのために設計された碧豆、およびこの はそのために設計された碧豆、 はそのために設計された碧豆、 はそのために設計された碧豆、 とで、 例えば、本発明はここで説明される暖根で及示碧 図のアドレッシングのために泊合したおよび/ま なはそのために設計されたドライバ気相回留を具 なれてる。

以下図面を参照して本色駅の実施例につき説明しよう。

31 図において、全体として数字1で示されている表示装立はピデオ信号受信包2と、完全な設位の表示すなわちピデオ信号の1つの高位を生するのに十分な計のビデオ信号を保持する容型を有する配位23 で見付している。また4つの行出力

持周昭63-226178(4)

装置4、5、6 および 7 が設けられており、これらの装置はそれぞれピクセルの1つの行を両像記憶器 3 から取り出しうるようにする。また、これらの装置はそれぞれ各行の各ピクセルに対する債権の1つのピットをそれぞれ分離するためのピット抽出器 8、9、10または11を有している。それによって得られる信号は、50個の双安定の表面安定化された独誘電性液晶ピクセル要素よりそれぞれなる600の行で形成されたラチスに作用するピクセル・ドライバ12、13、14または15に送られる。

第2 図は表示装置1 に使用するのに適しておりかつ長さが1 つの質像に対応したビデオ信号を部分的に示している。この信号は、1 つの画像のための信号の始まりを示すフラグ・パルス 2 0 と、それに続く、それぞれ特定のピクセル(第2 図においてカッコ内の定復で示されており、 X / Y は行 X 、列 Y のピクセルを 意味する)に対する 支示データである多数の部分(そのうちの1 つだけが2 1 で示されている)を有している。さらに詳細

(11)

ル要素がオンされ、第3のピットとして「1」を有。するライン441の各ピクセル要素がオンされ、そして第4のピット(すなわち級高位桁ピット)を有するライン281の各ピクセル要素がオンされる。これらのピクセルは1つのライン周期内で 顕次的にアドレスされる。

次のライン周期において、ライン 282、442、522および562は、先行ライン周期においてライン281、441、521および561がアドレスされたのと全く同じ方法でアドレスされる。次のライン周期およびその後のライン周期についても同様にして行われる。しかしながら、第41番目のライン周期においては、アドレスされるラインは321、481、561および1である(最後のラインは実効的には601である)。従って、最初のライン周期における表示データの最初のピットによってアドレスされたライン561は及示データの第2のピットによってアドレスされたライン561は及示データの第2のピットによってアドレスされたライン561はステータの第2のピットによってアドレスされたライン561

には、各部分21は4つのピットを有しており、 それらのピットのそれぞれは第3図および第4図 に関連して後で説明するアドレッシング・ステー ジの1つに用いるための設定値を扱わす。

第3 図は行出力、ピット抽出器およびピクセル・ドライバの1 つのライン周期における動作のシーケンスを示しており、第4 図は1 つの両後周期において行のうちのあるものに対して行われるアドレッシングのモードを示している。

第4図は、行281、441、521および 561が所定のライン周期でアドレスされるステージにおける表示装置1を示している。従って、 最初のピット (すなわち最下位桁ピット) として 「1」を有するラチスの行561における各ピクセル要素がオンされ、他のピクセル要素はオフされ、徒って、第2図に示されたビデオ信号を取り出す場合、ピクセル 561/1 および 561/2 はオンしており、ピクセル 561/1 および 561/4 はオフしているであろう。同様に、第2のピットとして「1」を有する行521における各ピクセ

(12)

ータが、1つの西集周期の 1/16 でありかつ 1 つのグレーレベルに対応する時間間隔のあいだ袋 当ピクセルを駆動する。表示データの3番目のピ ットによるライン561の3番目のアドレッシン がは、さらに80個のライン周期の後で生じ、2 香目のピット及ボデータは1つの両体周期のさら に 2/16 に対して使用され、従ってそれは2つ のグレーレベルに相当し、次のアドレッシングは、 さらに160個のライン周期の後で4番目のピッ トによって行われ、3番目のピット変示データは 1つのグレーレベルに担当するこの時間間隔に封 して使用され、次のアドレッシングは8つのグレ - レベルに対応する320個のライン周期の後で 夏初のピットによって行われる。人間の視覚系統 はこれらの個々のグレーレベルを積分するレスポ ンスを打している。

同様にして、直像内の各ラインは、1つの直像 周期のあいだに、40、80、160 および 320 個のライン周期の時間間隔で4回アドレスされ、 かつキビクセル製料は過当と考えられるのに応じ

特局昭63-226178(5)

てそれらの時間間隔のうちの1またはそれ以上のもののあいだオンされうる。このようにして、4つのピットの表示データ部分が16四のグレーレベルのうちの1つを形成する。第2因に示された表示データ部分をみると、1/1は16四のグレーレベルのうちのレベル8を打し、1/2はレベル3を打し、561/1はレベル13を打し、561/2はレベル1を打し、561/2はレベル1を打し、561/3はレベル8を打し、561/4はレベル1のを打している。

任意の1つの百位において、16個のグレーレベルを設分することが可能でありうるが、非常に明めてはコントラストを失ないフェードアウトするので、一辺の百位における虹度レベルの全ダイナミックレンジを衰录するのにはこれで十分でないことがありうる。完全な8ビット解位度を有する255ライン/フィールドを投示するためにライン・アドレス時間を20メニに短絶するための他の手段としては、先行フィールドの平均虹度レベルが4ビットA/D変換

(15)

グ・パルスによって消去される。これは利用しう るライン督を込み時間を67pgから53psに 短招する。そのグループ内の行は及低位桁ピット に対する周期が1ライン・アドレス時間だけとな るまで圧陷される。各フィールドが並列に2つの **半分にアドレスされると、1つのグループが尽大** 150ライン (100%収定) または風少15ラ イン(10%奴庇)をスケールすることができ、 金体で合計10個の知宜レベルが得られる。これ らの印度レベルの取つかあるいはすべてが、A/ D要協器に保給される可収券単電圧を固定し、各 シーンにおける奴庭レベルが忠寂に耳生されるよ うにする。哈那如果(contouring affocts)を促放 するために、基本電圧信号は、5ピット解放度を 実現するために及低位桁ピットに等低な程度だけ ランダムに変励されうる。この迢遊特位は本質的 に自動コントラストおよび郑度調節を与え、郑度 に関係なく任意のシーンで少なくとも16回のグ レーレベルが常に帰位されうる。

第7図、第10図および第11図に示された技

器の塔や電圧をセットする辺応グレースケール手 性が用いられうる。アナログ信号は、A/D 変換 器によって受換され、4ビットが先行函像における 取及の延囲をスケール(scale) し、16個のグレーレベルが各面像で常に帰収されうるようにする。第5 図は和々のコントラスト・レベルを有する。第5 図は和々のコントラスト・レベルの位子化を示している。これは先行フレームのある高定された 平均超低レベルを検知することによって実現され、 そのレベルがステップ比 公認内で100% 知度レベルと比較され、そしてそのステップ比 強器が知 にレベルをスケールするための可変基単意圧を与 える。第6 図は近応スケーリング(adaptive scaling)を実現しうる設置のブロック図である。

辺応スケーリングに従って設示上の印度レベルを変化させるためには、1つのグループの行かでドレス・ラインの一部分にわたってスケールされる。そのグループの外のアドレス・ラインは、登上位桁ピットを設示している原則の終りにおいて付加的な慣和ピットの形で与えられるプランキン

(16)___

在に従って動作する取示望立は、第1に、データが高風紀位器 70からアクセスされ、各桁ピットは8ピットのバイトにおける各ピットの桁に応じて4つのRAM 7トのうちの1つに記憶される点、第2に、1つの動作において衰末のエ図のラインのグループに特定の桁のピットをむき込むのに過した形式でデータがバイトのプロックとして検索される点において、先に記述されたものとは相迎している。 量初の手法は各動作でデータの1個のラインにアクセスすることだけを提客したが、この場合には動作の数が係取まだけ该少される。

前述の収成では、走在されるラインの放mは m=2°1xo

(ただし、nはピットの紋、pは窓紋)で与えられうる。しかしながら、ピットが刻8図に示されたような均大する桁の口旋なシーケンスで打き込まれると、弁ラインを含ま込むための時間は最低位桁ピットの時間に比較して大きい場合に過差が生ずる。従って、第8図に示されているように、
歴少数のライン(4ピット方式の場合15図のラ

特局昭63-226178(6)

イン)が止盗される場合には、ライン書き込み時間点表が 0.75 : 1.75 : 3.75 : 8.75の比を与えるための 4 ビットの時分割を憂ませる。

上述したデータ処理方法では、第1図~第6図のアドレッシング・シーケンスが用いられた場合にはハーフトーン・レベルに大きな過度を発生することがありうる。しかしながら、そのアドレッシング・シーケンスはこの誤差を除去するようには、ラインがアドレスされない場合(ブランク・ライン周期)にしつライン周期を表わすし、・マドレスするように変更される。このアドレッシング・シーケンスには3つの結果がある。すないい。この場合に走金されるラインの数は12またはこの数の信数となる。各ラインを書き込むのに利用できる時間が20%だけ短縮される。

ライン書き込み時間の効率の減少は、第10団 に示されているように3番目の桁のピットの最後 (19)

に書き込まれる場合に、SSFしCDを選動するのに必要な場合がある。しかしながら、第7図、第10図および第11図の修正されたシーケンスを用いると、同じピット桁でアドレスされたラインのグループ(グループ内のラインの数~ラインの送数 * 2 である場合)は「ミニフィールド」を構成するものと考えられる。この「ミニフィールド」はまず「オン」ストローブおよでデータをもって東産され、この場合、ハーフトーン・レベルには非常に小さい誤差(× 1/4ピット)のみが導入されるにすぎない。

第7 関、第10 図および第11 図のアドレッシング・シーケンスにおいて、「1」ピットがN/15 の連続した行に書き込まれ、次に「2」ピットがN/15 の連続した行に書き込まれ、以下自体にして書き込まれ、すなわち、「1」 2 逃アドレス・グループ (BAG) のすべての行の後には、「2」BAGの行の 1/2、「3」BAGの行の1/4、そして「4」BAGの行の1/8が後く。

(21)

の 1/2 ピットを切り換えるように方式を延長しかつプランク・ライン周期を利用することによって回復されうる。これは、 1/2 ピット最差拡張アルゴリズムを実施する手段を提供するため、および減少した 5 ピット方式を提供するための 2 つの陰様で用いられうる。

この場合、 1/2 ピットは最下位桁ピット (m=1) となり、 4番目の桁のピットから差引かれなければならない。 従って、標準 2 遺論テーブルが第 1 1 図のテーブルに示されているように位正されなければならない。 波少された 5 ピット方式における 3 2 個のハーフトーン・レベルのうち、レベル 1 5 および 3 1 だけがアクセスできないことがこの表からわかるであろう。

この方式は表面安定化された使誘さ性液晶装置 (SSFLCD) のような二状態光装置に使用するのに通している。しかしながら、ある「2フィールド」アドレッシング方式は、「オン」および「オフ」データが第1図~第6図のアドレッシング・シーケンスに通合しえない順次的フィールド

(20)

従って、西復紀世界は単一の行ではなくN/15の行のブロックでアドレスされうるものであり、なぜなら、そのブロックの行は常に連続しており、従ってアドレス動作の数をN/15という係数だけ減少させる。

しかしながら、この確正されたシーケンスは各ディジットの表示周期に、従ってグレースケールに、資産を生じうる。例えば、60ライン表示では、1つのブロックにおける行の数は4であり、ビットは行に次のようにして書き込まれるであろう。(4) 57、58、59、60、(1) 1、2、3、4、(2) 9、10、11、12、(3) 25、26、27、28、(4) 1、2、3、4、(1) 5、6、7、8、(2) 13、14、15、16、(3) 29、30、31、32、(4) 5、6、7、8等。「4」ビットによって再書き込みされる前に3個のライン周期のあいだ「1」ピットが行1、2、3、4に書き込まれるが、(1つのライン周期あたり4つの行が書き込まれると仮定して)、表示は4ラ

イン周期であるべきである。同様に、「2」ピットが8ライン周期ではなくて7ライン周期のあいだ表示され、「3」ピットが16ライン周期ではなくて15ライン周期のあいだ表示され、そして「4」ピットが32ライン周期ではなくて35ライン周期のあいだ表示される。これを克服するために、書き込みシーケンスに対する他の確正が促定されている(第9図)。ピットは、1、2、3、4の順序ではなくて、1、0、3、4、2の順序で書き込まれ、この場合、0はどの行にも書き込まれないことを示す。あるいはそのかわりに、「0」周期のあいだに、「1/2」ピットと同じ行に書き込まれてもよい。「1/2」ピットと同じ行に書き込まれてもよい。「1/2」ピットと同じ行に書き込まれてもよい。「1/2」ピットと同じ行に書き込まれてもよい。「1/2」ピットと同じ行に書き込まれてもよい。「1/2」

他の実施例の表示装置は別々にアドレス可能な SSFLCD光ゲートのn個のラインよりなる。 テレビジョンに用いる場合のnの典型的な値は 575でありうる。各ラインは、アスペクト比が 9:16のテレビジョン画像に対しては約1.7n

(23)

第 1 表

<u>2ビット+2ビットを有するハーフトーン、</u> 単純な処理

(黒レベル=1: 時間の比2:1)

サブピクセル	<u> 무</u>	<u> 計</u>		
0	0	1		
1	1	. 2 .		
1	2	3		
1	3	4		
2.5	. 1	3.5		
2.5	2	6		
2.5	3	8.5		
3.5	1 .	4.5		
3.5	2	8		
3.5	3,	11.5		

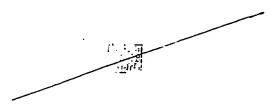
この方式における様々の利用可能なレベル間の 間隔は、3 d Bの平均視映象件下で最小限の機別 可能なコントラスト基と比較されなければならない。これは、パネル構造によって(例えばアライ の光ゲートを含んでいる。各光ゲート (ピクセル) は、比が約1:2.5でありうる間口面積 a、 b を 有する少なくとも2つのサブピクセルに分割される。

2 進コード化されたビデオ人力における適当な論理回路により、P-q-2であれば、それらのサブピクセルはa、bまたはa+bとしてアドレスされ、1:2.5:3.5の比で光出力を与える。2 ピット方式を実施するために他の論理回路が同時に用いられ、1:2:3の比で同様の頃の露光時間を与える。従って、単に対として切合わせることにより、第1変に示されているようなハーフトーンが得られる。

(24)

ンメント) によって設定された最大コントラスト 比が改善されるまであるいはコントラスト比が約 2 4 d B (16:1) より良くなるまで、2 ピッ ト空間および 2 ピット時間分割がハーフトーン化 のために十分であるはずであることを示している。

空間的に分割されたサブピクセルが時間グループにおける特定のピットと組合わせられると、他のハーフトーンがm = p + q ピットの最大値まで得られうる。従って、15のレベルが2ピット小分割ピクセルおよび2ピット時分割からこのようにして得られうる。第1支は時間スロットの比が4:1である場合に(2 + 2)から15の別々のハーフトーンがどのようにして得られうるかを示している。



--641--

(25)

			科局唱63-226178(8)
<u> 78.</u>	1 表		1 (第174-45) 1
2ピット+2ピットを	有するハーフ	トーン、	1 (第174-81) 4 6
よりは巧な処理			·
(黒レベル=1:	時間の比 4	:1)	1 (第17+-4) 1 2.5 (第274-4) 4 12
サブピクセル	<u>13 [5]</u>	<u>a 11</u>	
0 (河74-51)。	0 (英74-4	1 (1	1 (第174-64) [
			3.5 (第274-#+) 4 16
0 (第174-41)	1		
1 (第274-41)	4 .	5	2.5 (第174-51) 1
		•	0 (第274-85) 4 3.5
0 (第174-81)	1		·
2.5 (第 2 74-41)	4	1 1	2.5 (第174-64) 1
·			1 (第274-64) 4 7.5
0 (第174-41)	1		. •
3.5 (第274-41)	4	1 5	2.5 (第17<=5>) 1
			2.5 (第274-45) 4 13.5
1 (第174-8)	1		
0 (第274-81)	4	2	2.5 (第174-61) 1
			3.5 (第274-84) 4 17.5
(27))		(28)
3.5 (第174-68)	1	r	敗」によって除去されるものとして、約2のガン
0 (第274~61)	4	4.5	マを有するCRTで(ビット信号を再生した場合
			に十分なテレビジョン画像が発生されうることが
3.5 (第174-51)	1		示されている。 mピット分割されたサブピクセル
1 (第274-61)	4	8.5	がmピットBAGまたはパルス状の背光方式によ
			って同時にアドレスされてビデオ・パイトにおけ
3.5 (第174-81)	1		る同じピットが両方に対して使用されれば、SS
2.5 (第274-41)	4	1 4.5	PLCDは2のガンマを有するようになされうる。

3.5 (第 2.7(-4)) 次ステージは空間分割または時分割あるいは国 方でより多くのピットを用いることである。

3.5 (第174-43)

組合わせが用いられる場合には、31個のグレ ーレベルが存在し、これは、線、回折格子、規則 的な幾何学形状等のようなある特定の非ランダム 晩後の場合を強いて目に見えるものに基づいて正 当化されうるより多い。

通常は、伝送されるビデオ信号は圧縮されるの で2の全ガンマが望ましい。倫邦効果が『武差拡

92のガン した場合 ることが ピクセル 方式によ トにおけ ば、SS されうる。 ここでアドレッシングのための様々の方式につ いて説明しよう。すなわち、

(a) <u>モノクロム:BAGなし:分割ピクセル</u> によるグレースケール:

ピクセルが2道シーケンスによって4個の分割 に分割されれば、約2 4 個のハーフトーンが存在 し、1つのラインに書き込むために利用しうる時 間は不安であるが、列軍体の数は係数4だけ増加 される。

(D) モノクロム:BAG:未分割ピクセル:

時分割多重化が用いられている場合には、各 ラインに8個の異なる時間スロットで書き込むこ

-642-

特质昭63-226178 (8)

とによって8個のグレーレベルが得られる。BAG 方式では、各ラインがn回宮き込まれることを必 要とする。ただし、

n = log(g) / log(2)

である.

(c) <u>カラーフィルタ:BAG:ピクセル分割:</u>

P個のレベルのグレースケールがピクセル分割 することによって得られ、BAG方式によってQ 個のレベルのグレースケールが得られるとすると、 G-P×Qのグレースケールが得られる。ライン 当りに利用できる時間は単純な走変よりもm倍短い。ただし、

m = log(g) / log(2)

である。カラーフィルタ・ビットによってカラー が付加されると、(3) は

 $m(c) = c log(g) / log^{\epsilon}$

となる。ただし、cは2と3の間の定数である。

(4) 頂部および底部からの書き込み:

表示が2つの半分で書き込まれれば、それらは 同時にアドレス (書き込み) されることができ、

(31)

様に比較して育と赤では同じ解像度は必要とされないので、575ラインピットは+288ラインピットは+288ラインピット赤が復覚的に許容しうる娯楽用TV画像を与える。これは、ピクセルが分割され、かつバックライトがほに対しては13msにつき2回、赤および肯に対してはそれぞれ1回パルス的にオンされるべきことを意味する。

四 フレーム順次パックライティングー

<u> 1つのカラー:</u>

パルス状パックライトを伴ない、ハーフトーン がない場合には、7つのカラーだけが得られるに すぎない(テレテキストのように)。これはほき 込みのためにライン当りにつきより多い時間を許 容する。第三支は得々のオプションの詳細を示し

第四支

3つのTVパネルの詳細

これら3つのパネルはすべて65Hzのフレー ム速度で走りかつアスペクト比が16:9のテレ かつ1つのラインの書き込みのために上記(a)~(c) の場合の2倍の時間となる。

(c) クワッド マルチアレクス:

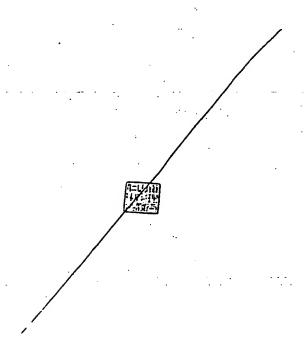
この方式では、ピクセルが一種の横曲状構造を 用いて頂部および側部からそれらの「ライン」な 権につきアクセスされる。これにより利用しうる ライン時間が上記(4)~(c)の場合の4倍となる。

(f) フレーム順次パックライティング -完全カラー:

時分割によるmビット・グレースケールに対しては、表示は約2m回書き込まれる必要があり、バックライトは狭合された光強度の2道シーケンスでm回パルス状にオンされる。ピクセルがすでに小分割されていれば、その場合には、3つのカラーに対し、4つの書き込みパルスにより、それぞれ事解像度赤および青の2つの全解像度様フィールドをもって三色カラー・フレームを書き込むに書き込まれれば、一連の書き込み工程間に消去パルスは必要でない。

(32)

ビジョン表示に基づいている。575の活性ラインが存在し、インターレースは存在しない。



	T E			
サブピクセル		・フトーン		時間ノライン
	<u>R</u>	<u>G</u>	<u>B</u>	
1.パルス状パックライト	9 (15)	3	3	32 # 1
分割ピクセル、			•	
クォッド マルチプレックス、				
解像度G = 5 7 5 × 1 0 2 2				
$R = 288 \times 511$				
B - 2 8 8 × 5 1 1				
(ランプに対して1ms を許容す	る) .			
2. カラー・ドット、	1.5	15	1 5	l 6 µ s
カラーフィルタパターンによる				
分割ピクセル、	•			
BAG (4.4.4)				
クォッド マルチプレックス、				
解像度G=575×1022	•			
R - 2 8 8 × 5 1 1				
B = 2 8 8 × 5 1 1				
上足向および向で記述された。				
3. カラー・ドット、	9 (15)	9 (15)	9 (15)	5 2 #s
分割ピクセル、				
カラーフィルタパターンに従って				
さらに分割されたピクセル、				
2 Ly FB A G				
クォッド マルチプレックス、				
解准度G = 5 7 5 × 1 0 2 2				
R = 2 8 8 × 5 1 1	•			
B = 2 8 8 × 5 1 1				•

(3Š)

第日表におけるカッコ内の数は第日表に示された様々のさらに複雑な信号処理によって得られるハーフトーンを示している。目はこのように多くのハーフトーンを説別することはできないかも知れないので、これらの長さまで行うことはかならずしも打利ではない。しかしながら、有用な組合せだけを保持するために通当な論理回路が用いられうるが、特に黒の近くで、量子化されたレベルのうちの2つの間でランダムに変更することによって付加的なレベルが付加されうる。

時分割と分割ピクセル方式を同時に用いることによって、次の利点が得られる。単純な信号処理(第1次)において得られるハーフトーン・レベル間の関係はより均一となり、利用可能なフォトリトグラフィに対する制限、ラインを窓内するために利用しうる空間、液晶またはベックライトの切換速度がすべて考慮され、それらのうちの1つだけがハーフトーンの利用可能な数を制限することがないようにし、概率用テレビのための多くのSSFLCフラットパネルに対しては2ピット

B A G 方式および 2 つに分割されたピクセル構造 で十分であり、より特巧な電子駆動装置を用いる ことにより同じパネル構造で多数のハーフトーン が用いられうる、あるいは同じことをするために さらに待巧なパネルに対して非常によく似た位子 騒動装置が用いられうる。図示のように、パルス 状カラー・バックライティングを用いたフレーム 順次方式で非常に良く似た方式が用いられうる。 この方式は、低密には2進シーケンスをなしてい ない時間または空間要素に対して拡張しうるもの であり、1:2.5:3.5および14:5の年2進 シーケンスを用いることによってダイナミックレ ンジが拡大され、時分割および空間分割の両方に 対してビデオ・パイトにおける同じピットを用い ることによって支示のガンマが2となされうる例 が与えられる。

4. 図面の簡単な説明

第1回は本発明による表示装置のブロック図、 第2回は第1回に示された表示装置に用いるため のディジタルビデオ信号の一部分の図、第3回は

特局昭63-226178 (11)

第1図に示された豊富の動作の一部分を示すプロック図、第4図は第1図に示された豊富のアドレッシング・シーケンスを示す図、第5図は本発明による他の表示豊富における処理ステージを示す図、第6図は第5図による表示豊富の一部分を示すプロック図、第7図~第11図は本発明の他の実施例を示す図である。

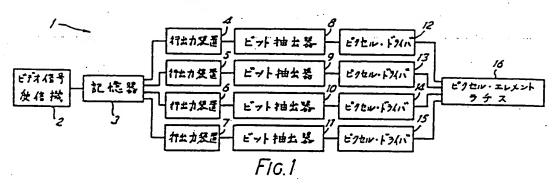
図面において、1 は表示装置、2 はビデオ信号 受信機、3 は記憶器、4、5、6、7 は行出力装置、8、9、10、11 はピット抽出器、12、 13、14、15 はピクセル・ドライバをそれぞれ示す。

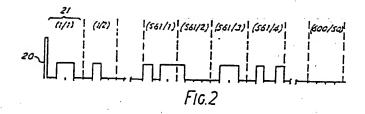
代理 人 弁理士 山 元 俊 仁

(38)

補正図

西面の浄書







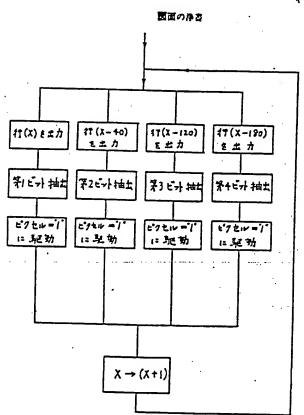
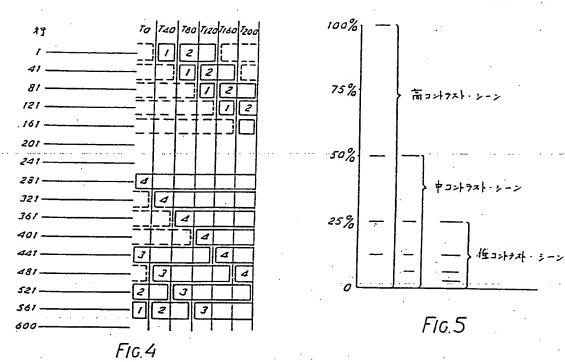
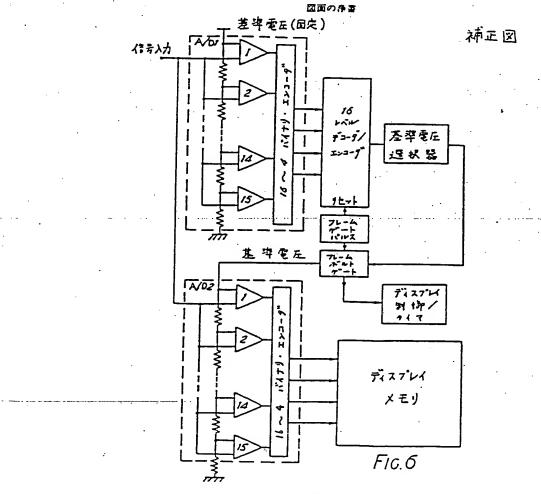
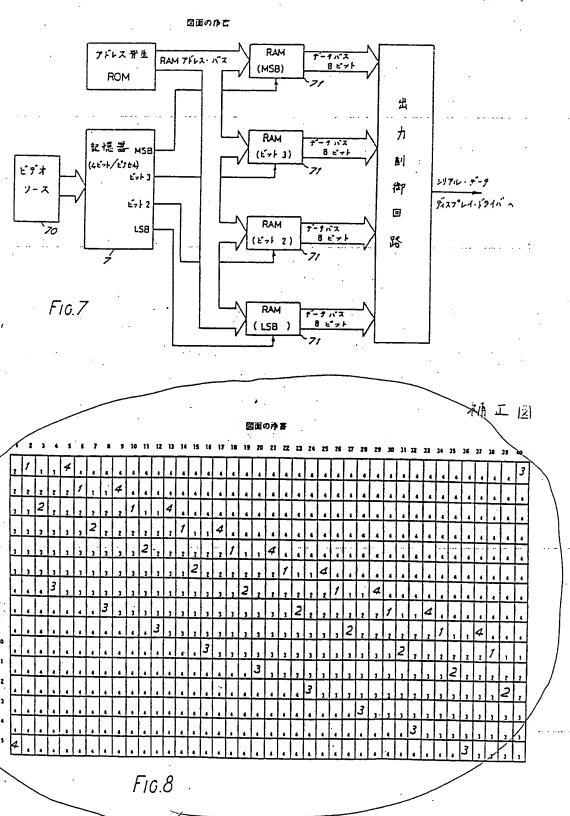


FIG.3





辅正 図



--648--

F16.10

12 13 14

特面型63-226178 (16)

手級補正書(方式) 昭和63年十月 20日

特許庁長官 小 川 邦 大 段

1. 事件の表示

昭和62年 特許翰 第235070号

- 2. 免明の名称 表示装置の幼作方法および表示装置
- 3、 補正をする者

* 事件との関係 特許出願人

******** 名:体:ソーン 『イーエムライ』ピーエルシー

4. 代 및 人 .〒105

住 所 泉東路港区虎ノ門1F目20番(号

〒初ピル 電路(03)595-1397(代) [三原]

氏名(6786)弁理士 山 元 俊 仁 皇心 5. 補正命令の日付 (発送日) 昭和62年12月22日

- 6、補正の対象

7. 補正の内容・・・・・・・

河面中、第1周、第3周、第6周、 第7図~第10図を別紙のとおり補正する。

F1G.11

ビか 桁 改

